



東地中海地域ニュース

パレスチナ：シャルム・エル・シェイクでの4首脳会談 (6月26日付エジプト紙)

1. 6月25日、ムバーラク大統領とアブドラ・ヨルダン国王の呼び掛けにより、オルメルト・イスラエル首相及びアッバース PA 大統領が出席した4者首脳会談がシャルム・エル・シェイクで開催された。同首脳会談に先立ちムバーラク大統領は、アブドラ国王、オルメルト首相、アッバース大統領それぞれと2者会談を行った。又、アッバース大統領とオルメルト首相も2者会談を行った。
2. 首脳会談閉幕に際してのムバーラク大統領の発言(概要):
 - (1) 約2年前に、ここシャルム・エル・シェイクで同様の4者首脳会談が行われた。その際の合意事項の中には、実施されたものもあれば、実施困難になったものもある。それ以降、パレスチナ、イスラエルを始めとする中東情勢は大きく展開したが、和平への希望の日々は、潮の満ち引きのように前進と後退を繰り返した。本日、首脳会談を呼び掛けたのは、パレスチナ及びイスラエルの人々や中東地域を含む世界の人々にとっての共通の望みである和平への希望を再生するためである。
 - (2) 本日の首脳会談では、和平プロセス再開に向けた雰囲気醸成、情勢の沈静下のための方策、信頼の再構築、パレスチナ人が直面する困窮の終結のために緊急に必要な事項について率直且つ真剣な議論が行われた。2者会談及び(4者による)拡大会談において、現在和平プロセスが直面する行き詰りの打開のために真剣に取り組む必要があることで意見の一致を見たことは喜ばしいことである。パレスチナの正当性、パレスチナ暫定自治政府やアッバース大統領への支援、西岸及びガザ地区を含めたパレスチナ統一、西岸及びガザでの最近のパレスチナ人の人道状況の悪化を收拾する必要性について、我々の意見は一致した。
 - (3) 本日の会合で自分は、パレスチナ人が対話を通じて立場の違いを越えて統一する必要性を強調した。又、自分は、パレスチナ人相互の対話への復帰、パレスチナの大議の名の下に共通の立場をとることは先延ばしできない必要事項であることを強調した。共通の立場は、パレスチナ・イスラエル間の流血事態を防ぎ、両者の暴力を終結させて、交渉のテーブルに復帰する雰囲気を醸成する。明確な政治的展望は、問題の一方的解決や一時的解決ではなく、公正且つ恒久的解決を実現する。
 - (4) 和平は、国際的な正統性の原則に基づいて達成され、独立国家を建設するというパレスチナ人の願いを実現する。パレスチナとイスラエルの和平は、シリアやレバノンを含めた包括的和平に道を開き、中東地域のその他の問題や危機に対処する際の新たな展望を与えることになる。

3. オルメルト・イスラエル首相の発言（概要）:

- (1) イスラエルとパレスチナの政治プロセスのために本会談を呼び掛けていたムバーラク大統領とアブドラ国王に感謝する。パレスチナ人の生活改善のために関税還付凍結の解除にコミットする。又、2005年のシャルム・エル・シェイク合意事項の中で、実施されていない事項を実施していく。
- (2) アッバース大統領と、交渉復帰に向けて信頼を再構築するために、少なくとも2週間に1回の会合を持つことで合意した。アッバース大統領は、イスラエルと共存するパレスチナ独立国家の樹立を目的とする和平プロセスのパートナーである。次回のイスラエル閣議で、ファタハに属する250名の拘束者の解放を提案すること約束する。

4. アッバース大統領の発言（概要）:

- (1) パートナーであるオルメルト首相に、東エルサレムを首都とし、イスラエルと共存するパレスチナ独立国家の建設を目的として、タイムテーブルに従って真剣な政治的交渉を開始するよう呼び掛ける。
- (2) 現在、パレスチナ人はガザで発生したクーデターにより深く傷ついているが、自分にはあらゆる可能な努力を継続することにコミットする。パレスチナ人は、なお占領下にあり、自分は過去ではなく、むしろ未来に目を向けて次のことを強調する。
 - (イ) 国際的な正統性、和平プロセス、イスラエルとの間で結ばれた過去の合意、暴力やテロの撲滅、1993年にPLOが承認したイスラエルと共にパレスチナ独立国家が共存するという2国家解決への原則へのコミットメント。
 - (ロ) 西岸、東エルサレム、ガザが不可分一体であり、パレスチナ人が統一を維持すること。
 - (ハ) 150万人が居住し、そのうちの87%が貧困に苦しむガザ地区への支援を国際社会及びイスラエル首相と共に継続して行くこと。
- (二) 全ての入植活動及び分離壁建設の停止、拘束者の釈放、封鎖の解除、2005年のシャルム・エル・シェイク合意の実施の必要性。
- (ホ) リヤドでのアラブ連盟首脳会合で確認されたアラブ和平イニシアティブが中東地域に包括的且つ公正な和平をもたらし、暴力、紛争、混乱、テロの根源を撲滅するための歴史的な機会であること。